



相談センターだより

第29号 2021. 11. 発行

スリランカの悪魔祓い

こんなタイトルを見ると、どんなオカルト話だと思われるでしょう？

これは文化人類学者の上田紀行氏によるスリランカで古くから行われている悪魔祓いという風習のもつ意味をフィールドワークによって明らかにしている「癒し」の書です。このなかで語られる悪魔祓いとは、スリランカ南部の農村地帯で主に行われている民俗医療行為のことです。

悪魔祓いの儀式は、患者の家の前の広場に祭壇を設け、100～200人の村人が参加し、呪術師がそれを司り、夕方から一晩かけて行われる村をあげての一大イベントなのです。式次第は、「悪魔へのお供え物」からはじまり、呪術師の進行によって、「患者」の心に巣くっている「悪魔」を外に追い出すことが試みられます。香を焚き、ドラムを轟かせながら呪文を唱え、まさに密教的で不思議な世界がそこにはあります。しかし、続く後半部は、雰囲気はガラリと変わる。それまで厳かに儀式を進行していた呪術師は、ダンサー兼コメディアンとなり、村全体が参加する、ダンスあり、お笑いありの、いわゆる「村の演芸会」に様変わり。お供え物も、村人たち全員に振る舞われます。悪魔祓いの会は、前半部とはうってかわって、「村人たちの社交の場」と化すのです。患者を取り囲み、談笑がかわされ、そして朝を迎える。村中が笑い合って、その患者が癒されるわけです。

この悪魔祓いを受ける患者、つまり「悪魔」に取り憑かれているとされるのは、一般的な近代医療でも治すことのできなかつた人々。それらの人々の心には、いつも「孤独」が巣くっています。「病い」は「孤独」から生まれます。社会の輪の中で孤立している人が病気に襲われ、病むのです。その病んだ人を「癒す」には、再び社会の輪の中に統合しなければなりません。著者も指摘しているように、「悪魔祓い」で行われていることは、機能的には、「共同体への再統合」です。別の言い方をすれば、患者を取り巻く「社会的関係」のもつれを解きほぐし、編み直す営みであるとも言えます。呪術師が外部から介入することで、「患者」と周囲のあいだで失われた「つながり」を回復し、編み直す営みなのです。

新型コロナウイルスの感染拡大により、人とリアルに会うことが、とても難しくなっています。毎日顔を合わせるのが当たり前だった上司、部下、同僚、日程さえ合わせればいつでも会えた友達とは、パソコンやスマホなどの画面を通して、コミュニケーションを取ることが普通になりました。人と人との関わり方は、今回のコロナ禍への対応を機に、大きく変わってしまったのかもしれませんが、つながりたくてもつながれない社会、こんな時だからこそ、人と人のつながりの解きほぐしや編み直しが必要ではないでしょうか。なぜなら、悪魔のまなざしは常に「孤独な人」に向けられているからです。

相談員 石井 洋平

一口メモ

「子どもたちの示す行動は、まさに親や治療者の姿を映す鏡のようなものである。どんな鏡であっても、心をこめて磨いたものであれば、それを“美しく”映し出すものである」
児童青年精神医学・山崎晃資氏のことばより

(紹介者： 相談員 餅原尚子)

■相談内容について■

当相談センターでは、相談者の個人情報の保護に万全の態勢で取り組んでいます。

※当相談センターでは、たとえば、次のようなことでお困りの方のご相談に応じています。

- ・自分自身に関すること
- ・対人関係に関すること
- ・家族に関すること
- ・お子さんに関すること（発達に関して気になること、不登校等、学校のことなど）
- ・その他

※相談内容によっては、より適切と思われる相談機関などをご紹介しますことがあります。

※相談についての秘密は厳守いたします。

■心理臨床相談センターマップ■

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

鹿児島純心女子大学 サンタマリア館

<http://www.k-junshin.ac.jp/graduate/consultation.html>

* アクセス *

◇JR九州新幹線／肥薩おれんじ鉄道／鹿児島本線

・新幹線（鹿児島中央～川内 約12分）川内駅下車

◇いわさきバスネットワーク

平日と日曜祝日は運行時刻が異なります。

本学ホームページその他をご参照ください。

(1) 路線バス

川内駅西口「川内駅前」バス停から「純心女子大学」行き 約10分

(2) 高速バスせんだい号

鹿児島（鹿児島中央駅・鹿児島駅）～鹿児島純心女子大学 約60分

◇南九州西回り自動車道（高速）

鹿児島IC～薩摩川内都IC 約50分

※市来IC～薩摩川内都ICの区間は通行料無料

